

## 大会宣言

「トキと共生する佐渡の里山」として GIAHS(世界農業遺産)に認定されて 10 年、GIAHS 認定 10 周年記念フォーラム in 佐渡を令和 3 年 10 月 29 日～30 日の 2 日間にわたり開催し、今後の佐渡と日本農業が進むべき方向性について意見を交えてきました。

本日、この成果を国内外に発信していくため、議論の成果をここに宣言します。

1. 環境問題に対する意識の醸成を図り、「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を継続することで、生きものを育む農法の普及・拡大に引き続き努めることを宣言します。
2. 離農や耕作放棄地の拡大など農業を取り巻く環境の悪化に備え、水田の多面的機能である生物多様性維持や防災機能などの影響を「見える化」し、人口減少に備えた地域づくりを早急に検討することを宣言します。
3. 「朱鷺と暮らす郷」をはじめとする環境を重視した農法へ転換するため、データに基づく多様な取組、特に、佐渡米については需要に応じた多様な用途の生産に取り組むことを宣言します。
4. 農業の持続可能性を確保するため、「協同組合」(農協、生協など)の重要性と地域での利益を地域内経済循環する仕組を構築することを宣言します。
5. 人口減少、労働力確保の観点から、地域内の労働需給の調整の仕組の開発、佐渡市への移住促進、新規就農を含む経営安定のための措置の強化・体系化に取り組むことを宣言します。
6. 農村コミュニティの維持と伝統芸能などを未来に継承するために、GIAHS(世界農業遺産)の中から、「佐渡モデル」を見つめ直し、未来へ継承する各種仕組みづくりの推進を宣言します。
7. 里山の農業を未来へと継承していくためには、若者の思いや夢に耳を傾け、みんなで応援する風土を醸成することが大切です。若者の声を政策やビジョンづくりに生かしつつ、多様な世代が一緒になって挑戦し続ける島を実現することを宣言します。

以上、本フォーラムの成果として、今後、国内外に広く発信します。

令和 3 年 10 月 30 日  
佐渡市長 渡辺竜五